

テモテの手紙 I 6章 11節にある「信心」とは具体的にどのようなものでしょうか。

「しかし、神の人よ、あなたはこれらのことを避けなさい。正義、信心、信仰、愛、忍耐、柔和を追い求めなさい。」(新共同訳)

広辞苑では、「信心」---神仏を信仰して祈念すること。またその心、信仰心と説明しています。しかし、これではあまりにも一般すぎて、聖書の意味する信心の具体的な内容がわかりません。

そこで、英語訳聖書を調べてみると、大半の聖書訳は *piety* あるいは *godliness* となっており、この意味を ODE(Oxford Dictionary of English)は以下のように説明しています。

*piety*--the quality of being religious or reverent

*godliness*--devoutly religious, pious

すなわち、「信心」には、神への畏敬、敬神、信心深さなどが含まれており、非常に深い意味があることがわかります。

ちなみにギリシャ語本文では *εὐσέβεια* (エウセベイア) で同様の意味を含み、

Zonderban社の Amplified Bible では

*godliness*(which is the loving fear of God and being Christianlike)

同日本語版(詳訳聖書)では「信心」を「敬けん」と訳し、さらにかっこ書きで「神に対する愛から出た神へのおそれ、キリストに似ること」

と説明していますので、この言葉の意味する範囲を的確に捉えているものと思われまます。

参考：聖書ソフト BibleWorks10 に組み込まれた、Friberg Greek Lexicon の説明 *εὐσέβεια, ας, ἡ* (1) generally, as a particular manner of life characterized by reverence toward God and respect for the beliefs and practices related to him *religion, piety* (1T 3.16); (2) as behavior directed dutifully toward God *piety, devotion, godliness* (1T 6.11); plural *godly acts, godly living* (2P 3.11)